

『サイチンガ研究と資料』（叢書）の編集と刊行について

都馬バイカル（桜美林大学教授）

“Сайчунга судлал ба материал” (Цуврал бичиг)-ийг найруулж хэвлүүлсэн тухай
Төвчүүд Байгал (Оберин Их Сургуулийн профессор)

20 世紀前半期、日本に留学していたモンゴル知識人を研究する際、サイチンガは欠かせない人物である。日本で近代教育を受けたサイチンガは、存続の危機に直面していたモンゴル民族の復興のために、様々な啓蒙活動を積極的に行っていた。特に徳王政権時代（1936 年～1945 年）において、サイチンガのチンギス・ハーンに対する認識と評価・モンゴル仏教の改革・女性の人権と解放・近代教育及び科学技術の普及などについて書かれた作品は、特別に評価されるべきである。中国と日本では、サイチンガ研究は知られているが、モンゴル国では未開拓の状態である。この状態を打破するために、2022 年から、サイチンガの早期の代表的な作品 (モンゴル国と関連性のある作品も含む) を、モンゴル国の研究者たちと協力し、キリル文字で『サイチンガ研究と資料』（叢書）を編集し、出版に至った。

本報告では、今まで既に出版した 8 巻の内容を紹介しながら編集における問題点を指摘し、今後の計画について概説したい。